



新年のごあいさつ

理事長 松 田 等

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当組合の事業運営に対してご指導とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

いよいよマイナンバーの利用が今年1月からスタートしました。全国の公的機関等に存在する個人情報と同一人の情報として確認できることになり、「社会保障」・「税」・「災害対策」の分野で公的機関等のサービスが今まで以上に充実されることが期待できます。また、マイナンバーで紐付けされた個人情報の流出のリスクを考え、国は第三者委員会（特定個人情報保護委員会）を設置し、監視・監督を行うこととしています。当組合といたしましても国民健康保険業務で利用するマイナンバーの取扱いについては、パソコンの運用、組合規程の整備等を行い、セキュリティーに万全を期するようにして参ります。

さて、国においては昨年5月、国民皆保険制度を将来に亘って持続するために「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」が施行されました。改正内容は平成30年度には財政運営責任者等の都道府県移行という大きな制度改革であります。国保組合に関しては、平成28年度から5年かけて実施される所得水準の高い組合の国庫補助金の見直しが含まれています。昨年度に実施した所得調査により当組合の国庫補助金の補助率は現行水準を維持できましたが、今後、予断を許さない状況にあり、早期に組合財政の改善への取組みが必要とされています。

当組合においても被保険者数の減少、国庫補助金の削減、医療費の増加等によりここ数年間、単年度収支が赤字になっています。組合経費の削減への取組みを始め、すでに国保だよりでもご通知しましたが、介護保険制度開始当初から15年間据置いてきました介護保険料を本年4月から改定をさせていただくことになりました。しかしながら、財政赤字体質から脱却するには十分とは言えません。引き続き、組合財政の将来的な安定に向けて委員会、理事会等において種々協議を重ねてまいりたいと考えております。

今年1月には組合員の資格調査、3月には被保険者証の更新等を予定しておりますので、組合員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びに、今年が穏やかな1年であるとともに、組合員とご家族のご健康とますますのご繁栄を心より祈念し、新春のご挨拶とさせていただきます。

〃	〃	監	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理	専務	〃	副	理	謹 賀 新 年
		事								事	理事		事	長	
高	岡	池	信	津	田	山	大	井	市	小	磯	小	上	松	
田	本	内	吉	田	伏	中	西	上	川	我	垣	林	野	田	
昌		善	秀	彰	裕	祥	良	義	桂	光	一	正	浩		
英	博	一	起	眞	一	悟	仁	平	三	博	雄	夫	昇	典	等



「文化創生」から新たな京都を

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

昨年7月には、長年の悲願であった京都の南北軸、京都縦貫自動車道が34年という長い歳月をかけてようやく全線開通しました。京都全体に大きな流れを創るこの大事業の完成に尽力された全ての方々に、心からお礼を申し上げます。

この開通を期し北部7市町においては、4カ月にわたり「海の京都博」を開催し盛り上げていただきましたことに対しましても感謝申し上げます。

また、昨年は琳派400年記念事業、さらに国宝「東寺百合文書」と第二次世界大戦後のシベリア抑留者等の引き揚げ記録「舞鶴への生還」の世界記憶遺産登録。そして「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城」の日本遺産への認定など北から南まで京都の持つ豊かな文化を示すことが出来た一年でした。

しかし、地方消滅とまで言われる少子・高齢化問題や、雇用情勢が好転すると顕著になる人材不足。円安により輸出産業が伸びる一方、内需型中小企業は原材料高に苦しみ、伝統産業も広幅織物は伸びたのに対し着物の需要はまだ低迷、さらにはTPP問題で農林水産業には懸念が広がるなど、さまざまな課題が改めて浮き彫りになった年でもありました。

京都流の地域創生へ

こうした課題の克服と同時に京都の力を最大限に発揮して、京都の将来を切り拓くことができるよう、昨年10月、「京都流 地域創生～『文化創生』から新たな生活を～」をテーマに「京都府地域創生戦略」を策定しました。

こうした問題の背景には東京一極集中や、大都市や大企業志向に代表されるような価値観の固定化が進む中での格差の広がりがあり、社会が柔軟性を失いつつあるのではという危惧があります。今、京都から、少子化問題・子供の貧困対策、若者の就労支援などでもう一度「人づくり文化」を確立させ、マネーゲームにはない真の豊かさを取り戻すために産学公の力を結集し、技術力に裏打ちされたものづくりの素晴らしさを広め、京都の豊かな農林水産資源を六次産業へと発展させる時代を踏まえた「産業文化」を育成し、京都ならではの伝統・文化に恵まれた大都市と豊かな自然をもつ田園の両方の魅力を楽しむ、ある面贅沢な「京都ぐらし文化」を創生させなければなりません。そしてこうした文化を統合させ、京都が多様性に富み、躍動的な地域として魅力を世界に発信できる「地域づくり文化」へと昇華させていくと考えています。

これからの数年は京都の将来を左右する大事な時です。地域創生は他人事ではなくまさに私たちの未来です。

京都には、どこにも負けない歴史と伝統があります。さらには世界水準の大学・研究機関、高い技術力を持った中小企業の集積、豊かな自然環境など魅力的な資源や資産をたっぷり有しています。

「もうひとつの京都」の発信

昨年は「海の京都」を見ていただきました。そして今年は「森の京都」です。京都府の74.3%は森林であり、森は私たちの水を清め、空気をつくり、災害を防ぎ、さらには貴重な木材資源を提供してくれます。何にも代えがたい宝である京都の森の素晴らしさを皆さまとともに分かち合い、次世代に引き継ぐため、「全国育樹祭」を中心に、森の恵みを府民の皆さまに体感していただく「森の京都博」や丹波高原の国定公園の新規指定など、林業の振興と自然保護と森の文化が一体となった「森の京都スタイル」の確立を目指した地域づくりを進めることとしています。

こうした素晴らしい森林を未来に受け継いでいくための財源として、「豊かな森を育てる府民税」の導入を昨年、府議会でご議決いただきました。4月から年600円お願ひすることになりますが、どうか府民の皆さまに、この税に対するご理解をいただきたいと思ひます。

京都の未来を拓く人をつくり、地域経済を活性化させて仕事をつくり、京都への人の流れをつくる。さらには新しい交流の中で持続可能で魅力と活力のある地域をつくり、そして京都から日本を変える新たな「文化創生」。今多くの観光客が京都を目指しています。単に名所旧跡があるからだけではなく、京都の持つおもてなしの心、人を癒す環境、ほんまもんが持つ力が人々を引きつけているのだと思ひます。

今年、リオデジャネイロでの夏のオリンピック・パラリンピックが終わればいよいよ東京オリンピック・パラリンピックへの道のりが始まります。その皮切りが、秋に京都で行われる国主催のスポーツと文化の国際フォーラムです。京都の「文化創生」はいよいよ本番を迎えます。府民の皆さまのご協力を心からお願ひし、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



“共汗”のまちづくりが着実に前進！ 共々に明るい未来へ！

京都市長 門川 大作

あけましておめでとうございます。

この一年の京都府建設業職別連合国民健康保険組合の皆さんの御多幸をお祈り申し上げます。

皆さんの御支援をいただき、市長就任後8回目の新年を迎えました。この間、現地現場主義に徹し、六千箇所以上の市民の皆さんの活動の場、市政の第一線を訪ね、京都の今と未来を見つめ、市政改革に邁進してまいりました。その度に、改めて京都の地域力、創造力、それらを支える皆さんの人間力に感動し、感謝感謝の日々です。

多くの方からこんな声をいただきます。デイサービスセンターが近くにできて喜んでます。京都のまちが、趣のある看板や「門掃き」などで美しくなってきましたね。待機児童ゼロ！保育所に入りやすくなり、幼稚園も充実。さらに小・中・高校が地域、PTA、教職員の熱意により画期的に良くなってきましたね。市バス、地下鉄が便利になり、お客様も増えてますね。観光人気都市世界一は私たちの誇りです。京都の都市格の高まりを実感しています。水族館に続き、動物園、動物愛護センターが素晴らしい！ロームシアター京都、鉄道博物館の開館が楽しみです…。市民の皆さんと共に汗する“共汗”で進めてきた施策の確かな前進を、肌で感じています。

府市協調で二重行政を打破し、行政の効率化と行財政改革の断行で財源を確保。また市民の皆さんの御協力でごみは43%減り、年間ごみ処理のコストは106億円削減、福祉等の充実へ。歩くまち京都・公共交通優先の取組も着実に進展。マイカーで入洛する方はこの20年で42%から9.9%に減少。四条通の歩道拡幅も御心労おかけしましたが、工事が完成し歩きやすくなり、バスの運行もほぼ順調に。福祉と共に、子育て環境日本一を目指す施策も前進。そんな京都で子育てしたい、住みたい！という方が増え、転入される方も増えてきました。

しかし、市民の皆さんや中小企業の皆さんが豊かさを実感されるまでには至っていません。まだまだ課題も山積。京都ならではの文化力、知恵を活かし、経済の活性化、安定した雇用の創出につなぎ、市民の皆さんに「京都に住んでいてよかった」と心から感じていただけるよう誠心誠意努力します。そのためにも文化庁を京都に！オール京都で取り組みます。

皆さんの御理解御支援に改めて感謝申し上げます。

上半期医療費の集計がまとまりました

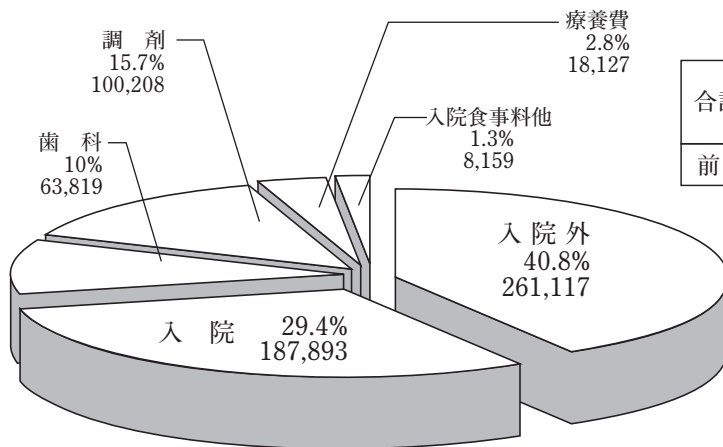
平成27年度上半期の医療費は、前年より32,300千円の減(-4.8%)になり、被保険者一人当たりも減少しています。

特定健康診査(40歳~74歳の被保険者対象)や人間ドック(35歳以上の被保険者対象)の助成をしておりますので、積極的に受診し、生活習慣を見直すよう心がけてください。

今後とも医療費の節減にご協力をお願いします。

平成27年度上半期医療費の構成割合

単位：千円



合計	26年度	671,623千円
	27年度	639,323千円
前年度比較	4.8%減	

1人当上半期医療費の動向

単位:円 ()は前年度比

